

主な質疑応答の内容

No	項目	質問	回答
1	説明動画	説明が漠然としている。動画を見ても具体的な内容がわからない。	本説明会は、義務教育学校制度や市教育委員会が考える最善の案を説明しています。具体的な中身は保護者を含む学校関係者に意見を伺いながら決めていきます。
2	説明会参加者	説明会参加者が少ない。オンライン開催も同様か。	多くても各回 10 人以下。3 月 22 日のオンライン説明会には 8 人が参加した。並行して説明動画も配信しており、1 か月で 1,400 回再生されているため、動画で確認する人が多いと考えています。
3	開校時期	令和 10 年 4 月開校とのことだが、年度の途中から開校することはありえるか。また、後ろ倒しになることはないのか。	子ども達への影響を鑑み、年度途中からの開校はないよう進める考えです。また、令和 10 年度開校を目標に準備を進めます。
4	今後の説明会	今後、進捗があれば説明会を再度開催するのか。	「開校準備だより」といった形で、進捗状況は適宜周知したいと考えています。詳細な事項についての説明会は、開校が近づいてから開催する考えです。
5	意見聴取	市民の意見を聞くように促した請願が却下された。意見を聞く気がないのでは。	市教育委員会としては、学校関係者の意見を丁寧に聞いて進めていく考えです。
6	未就学児保護者	未就学児保護者への周知は。	柏一小、旭東小、柏中学校の学区内の保育施設を經由して周知しました。
7	地域関係者	地域にも回覧等で対応してもらってはどうか。	既に町会長あてに、回覧や掲示の依頼をしています。
8	関係団体	関係校の PTA 等とも調整し意見交換をしてはどうか。	今後、関係 3 校の PTA に連絡をとり、意見交換の場を調整することを検討します。
9	地域協議会	構成委員や検討内容は。	現時点では、構成委員は学校運営協議会委員を中心に組織する考えです。協議する内容は、校名や校歌等、学校関係者とともに検討することが望ましい事項を検討しています。

No	項目	質問	回答
10	小中一貫校の効果	視察先ではどのような効果が指摘されていたのか。	様々な効果が指摘されています。特に情緒面が安定し、異学年交流を通して社会性を育むことができるという効果があることを多くの視察で確認できました。
11	計画の白紙化	本事業が白紙化することはあるのか。	平成 25 年度より開始した小中連携教育における検証等を踏まえ、さらにより良い教育を実現していく最善の案として、この施設一体型の義務教育学校を提示しています。市教育委員会の判断で白紙化することはありません。
12	反対意見	これまでに反対意見はあるか。	市教育委員会に届いている反対意見は少数です。
13	懸念事項	今回の義務教育学校の設置に向けて、懸念している事項はあるか。	学校は教育施設という以外に地域の方々にとってもシンボリックな施設であるため、今回の事業を多くの方々に賛同いただけるよう努めます。
14	旭東小関係	柏一小が老朽化しているならば、柏一小だけ移転すれば良いのではないか。旭東小の校舎はまだこの先も使用できる。また、小中一貫校に行きたくない人のためにも、学校を残した方が良いと思うがどうか。	柏市には小中連携教育のベースがあり、教育の質を高める好機と捉え、柏中学校での義務教育学校の開校が最善案と考えています。中学進学時に柏中と柏一小の一体感がある中で、旭東小の子どもが中学進学時から新たに入学するとなると、馴染みづらくなることが懸念されるため、両校とも同一条件とすることが望ましいと考えています。
15		今の旭東小より学校規模が大きくなることが懸念される。	柏中学校は敷地が広く、小学生用の校舎、体育館、グラウンド等を整備できる見通しを持っていますし、教職員も学校規模に応じて人数が配置されます。その他、児童生徒数が増加することで懸念される事項については、一つずつ学校と連携し課題の対処に取り組む考えです。
16	旭東小給食室	給食室を改築したのにもったいない。	子どもの安全に関わることは迅速に対応する必要があるため、改修しました。
17	中学校の各学年の学級数	中学校のクラス数の見込みは。	1 学年あたり 4~5 クラスを想定しています。

No	項目	質問	回答
18	クラス編成	令和10年度のクラス編成は、柏一小と旭東小で別々になるのか。	児童一人ひとりの特性を踏まえ両校で調整した上で、2校の児童を合わせてクラス編成を行う予定です。
19	児童生徒数	1学級あたりの児童生徒数に変わりはないのか。	法律で定められた人数となり、変更はありません。
20	移行	児童生徒はスムーズな移行ができるのか。	令和5年度に田中北小を移転した際には、田中小から約300人が田中北小に移ることになりました。移転の前年度から両校職員間で児童についての情報交換を密に行い、丁寧に開校準備を行うことで大きなトラブルなく移転開校を行うことができました。
21		学校で使用する備品等について、移行期間のようなものは設定しないのか。	今後、学校運営について調整する中で、必要な場合は設定し、新たな経済的な負担増加にならない観点にも留意します。
22	規模に関する不安	規模が不安。課題とその対応策を教えてください。	視察先では①施設不足、②教職員間の連携、③通学距離の延伸が主な課題として挙げられていました。対応策としては、①必要十分な施設の確保は可能。②ICTの活用や定期的な職員会議の開催等で情報共有が可能。③スクールバスの運行も含めた安全対策を検討しています。
23		柏駅前の開発に伴い児童生徒数が増加するのは。	現在のところ、再開発の計画は不透明なため、施設整備においては再開発による影響は考慮せずに進める考えです。再開発に限らず、駅周辺を通学区域とすることから、将来にわたって児童生徒数が増加した場合に増築可能なように校舎等の配置を検討します。
24		流山市のある学校では、児童数が多く、保護者が運動会を見られない、全学年一緒にできないという話を聞いたが、どうか。	運動会を含む学校行事はその目的が重要と考えます。教育効果を最大限発揮できるよう行事ごとに実施方法等を検討します。先進自治体では、前期課程・後期課程で分ける実施している例もあります。

No	項目	質問	回答
25	教員配置	開校時には 3 校の教員がそのまま着任するの か。	子どもたちのことを良く知る教員の配置も重要事項であるた め、配慮していきます。
26		教職員数は増加するか。	前期課程・後期課程それぞれの学級数に応じた教職員が配置 されます。教頭職や養護教諭等は複数名配置され、増置教員 も配置される見込みです。
27	教員免許	中学校教員は小学校免許が必要か。	中学校の免許状があれば、小学校の該当教科を指導するこ とができます。
28	教員研修	現在の小中学校の連携の状況はどうか。	先日、旭東小と柏一小で柏中学校教員による乗入れ授業を行 い、児童からは好感触を得ることができました。 今後は、全市的な小中一貫教育の展開を見据え、先行して 3 中学校区（柏中学校区、柏の葉中学校区、高柳中学校区）で 様々な一貫教育に関する取り組みを進めます。
29	教員と子ども の信頼関係	教員が多くなると子どもと教員との信頼関係が 築きにくくなるのでは。	小学校 1・2 年生は担任との安心感の中で、学校生活を送るこ とが望ましいと考えます。 5・6 年生は様々な教員との交流する方が良い場合も考えられ ます。
30	教職員の組織 的対応	教職員が組織的に対応できるとは、どういうこ とか。	義務教育学校では校長は一人ですが、教頭職は 3 名程度、養 護教諭も 3 名程度配置される見込みです。 これまでは、校外学習や宿泊学習等で、学校の保健室に養護 教諭が不在の日がありましたが、義務教育学校では、養護教 諭が保健室にいられる時間が多いことで、子どもたちへのケ アが行き届くようになります。 また、前期課程の各学年に副担任のように教員を配置できる ため、複数の教職員の目で子どもたちを見ていくことが可能 となります。

No	項目	質問	回答
31	教職員側の課題	教職員にとっての課題は。	小・中学校が一つになり、教職員数が増加するため、教職員間の情報共有に工夫が必要であることや、校長職の負担が増加するといったことが挙げられています。 義務教育学校では、教頭職の複数配置、増置教員も含めた組織的対応と併せて、ICT 機器を活用した情報共有等を行うことで課題には対処できるものと考えています。
32	教職員のゆとり	教職員の負担を解消して、ゆとりある学校にしてほしいが、どうか。	小学校では授業中にトラブルが発生した場合、職員室にいる管理職や教務主任が対応することが多いです。義務教育学校であれば、職員室に管理職以外の職員が複数名いるため組織的な対応をしやすくなります。
33	教職員への説明	3校の教職員に説明はしているのか。	すでに3校の教職員には説明しており、「期待している」、「働きたい」との前向きな意見や、乗入授業により、学習上の躓き箇所を把握でき、教員の指導力向上にもつながるものといった意見が出されました。
34	管理職の役割分担	義務教育学校の校長は一人となるが、管理職の責任の明確化はどうなるのか。	教頭職は3名配置される見込みで、前期課程と後期課程それぞれに配置されます。業務を分担し、校長の負担軽減を図れるものと考えています。
35	学校運営	ペーパー試験や、定期試験、内申書などの取り扱いはどうなるのか。	現時点では、他の市立学校に配慮し、従前のやり方を踏襲することを想定しています。詳細は今後、学校と連携し調整します。
36	授業時間・チャイム	小・中学校段階で授業時間が異なるが、チャイムはどうするのか。	現在、授業時間を含めて検討を進めています。先進自治体では、45分に統一している例や、5年生若しくは後期課程から50分授業にしている例もあります。 現在、文部科学省において授業時間の短縮も検討されていることから、その動向にも注視していきます。

No	項目	質問	回答
37	安全配慮	教職員の目が行き届かないが増えるのではないかという点で、安全面がとても心配。	これまでもよりも多くの大人の目で子ども達を見ることができると、教職員間で連携を図りながら学校を運営していく考えです
38	制服	制服はどうなるのか。	保護者の意見も聴きながら地域協議会でその決定までのプロセスを含めて検討していく考えです。 保護者への金銭的負担を最小限にとどめる視点も持ちながら検討を進めます。
39	持ち物	体操着等の持ち物はどうなるのか。	保護者への金銭的負担を最小限にとどめる視点を持ちながら検討を進めます。
40	教育課程	義務教育学校で行う 9 年間のカリキュラムとは。	学習指導要領に基づき授業を行うことは、これまでと変わりませんが、9 年間の義務教育期間を見通した連続性を高めた教育活動を進めることができます。詳細は、今後、学校と連携し検討を進める考えです。
41	指導内容の入れ替え・移行	6-3 制から 4-3-2 制等に変更できるとの説明であったが、品川区の学校のように学年の枠を超えて先取授業を行うことも考えているのか。転校者や転入者への影響は。	市立学校での公教育の公平性にも配慮する必要があるものと考え、開校当初から各学年間の指導内容を入れ替えて指導することまでは考えておりません。
42	学年区分	小・中学校の区切りは残すのか。	前期課程、後期課程の枠組みが残る事項はあります。
43		4-3-2 制や 5-4 制の違いは。	小学校では 1・2 年生を低学年、3・4 年生を中学年、5・6 年生を高学年と分けて指導上の重点を置くことがあります。義務教育学校では 9 年間の中で、指導上の工夫として柔軟に区分することも可能になります。
44		学年の区切りとは。	
45	中学受験	中学受験への影響は。	小学校段階で学ぶ内容は、他の小学校と同様に前期課程で学習するため、影響はありません。

No	項目	質問	回答
46	中学生の活動の制限	中学生の活動も制限されるのではないか。	制限なく活動できるよう施設整備を進めます。また、学校行事や教育活動については、異学年で実践することで教育効果を高めることが期待されるよう工夫する考えです。
47	乗入授業	乗入授業は良いことなのか	子ども達にとっては専門性の高い授業を受けることができ、また、教職員にとってはわかりやすい授業につながるよう授業改善に取り組めるため、双方にとってメリットがあるものと考えています。
48	中学校教職員の負担	乗入授業は中学校教職員の負担にならないか。	中学校教職員は授業の持ちコマ数が増加する場合があります。一方で、1～9年生の授業を行ったり参観したりすることで、児童生徒が学習上何に躓いているのかを把握でき、授業の質の向上につなげることができるといったメリットが大きいことを先行自治体から伺っています。
49	少人数教育	教職員数が増えるなら1クラスあたりの人数を減らし、少人数教育はできないのか。	1クラスあたりの人数は法律で定められており、この人数が基本となります。なお、必要があれば、増置教員と担任でクラスを2つに分けるなど、少人数での授業を組むことも可能となります。
50	クラス数	1学年あたり4～5クラスの規模は大きいのか。	柏市には同規模の学校は他にもあります。このような学校では柔軟にクラス替えができるため、多様な友達と出会うことができます。
51	人間関係の固定化	9年間同じ環境では人間関係が固定化してしまい、不登校の子が環境の変化を機に学校へ行く機会を奪ってしまうのではないか。	1学年あたり4～5クラスとなる見込みであるため、人間関係の固定化は生じにくいと考えております。子ども達一人ひとりの成長や発達を促せるよう、学年の区切りを変更したり、行事での区切りを設定したりすることを検討しています。

No	項目	質問	回答
52	いじめ	いじめは増えないか。	これまでよりも多くの教職員が子どもたちに関わりますので、組織的にいじめの未然防止に取り組むよう努めます。
53	不登校	不登校は減りそうだと考えるが、どうか。	不登校の要因の1つに小中学校間のギャップの問題があります。義務教育学校では、そのギャップを緩和する効果が期待でき、環境が変わらない中で安心感をもって学習活動を継続できると考えております。
54	中・高ギャップ	9年間同じ環境で変化がない温室状態では、高校進学の際、支障は出ないか。	様々な友達や、小中学校両方の教員と関わりながら、教育活動を進めることで、高校進学の際に必要な力を付けられると考えます。
55	行事	学校行事はどのように運営するのか。	学校教育目標の実現に向けてどういった取り組みを行うのが重要となりますので、行事ごとに今後検討していきます。運動会を例にとると、全校で行う例や前期課程・後期課程で分ける例もあります。合唱祭は全校で行う例が多くあります。始業式は全校で行う例や4年生や5年生以降で区切り、2部制で行う例もあります。
56		小学校の卒業式、中学校の入学式はあるのか。	他自治体では、実施している場合とそうでない場合があります。今後、学校と連携し検討を進めてまいります。
57		小1と中3では成長の差があるが、行事はどのように考えるのか、日程や行事の長さはどうか。	教育効果を考え、学校教育目標の実現に向けて、行事ごとに実施方法、日程、行事内容を考えてまいります。行事の内容は教育効果を鑑みて検討を進めていきます。
58		行事は市教委が一律に実施方法を定めているのか。	各学校の実態に応じて、学校長が実施方法等を決定しています。
59	縦割り活動	旭東小は異なる学年が交流する縦割り活動が盛んだが、柏一小では行われているか。	月1回程度実施しています。今後のすり合わせの中で、必要な取組を検討していきます。

No	項目	質問	回答
60	P T A	P T Aの活動はあるか。	P T Aのあり方については、3校のP T Aと調整の上、検討が必要と考えています。
61	学区変更	学区の変更は考えているのか。	現時点で、学区を変更する考えはなく、新たに整備する義務教育学校の通学区域は現在の柏中学校の通学区域と同じとする考えです。
62	近隣校への転校	遠くて通学が困難と考える場合は、他の小中学校へ就学することは可能か。	就学希望の学校の空き教室数等にもよりますが、学区外就学制度がありますので、希望する方には個別丁寧にお話を伺い、できる限り柔軟な対応に努める考えです。
63	学区外就学	小学校までが遠いため、前期課程は学区外制度を利用し旭小に就学し、後期課程から義務教育学校に就学することは可能か。	必要な要件を満たしていれば、学区外就学を利用することができます。義務教育学校の学区内に居住している場合には、後期課程から義務教育学校に就学することは可能です。
64	通学上の安全対策	通学上の安心安全を考え、学校付近に引っ越した。通学路の安全対策はどうする予定か。駅周辺で不審者も多い。スクールバスも降り忘れや運転者の高齢化の問題もある。歩道の確保等は時間のかかる取り組みのため早めに動いてほしいがどうか。	通学時の安全対策は大変重要と認識しています。通学路の安全対策は、警察、道路管理部署とも連携して対応を進める予定です。全ての通学路を確認した上で、まずは市教育委員会内で想定通学路を設定し、それに対してP T Aなどにも意見を聴く予定です。スクールバスの運行を検討する他、その他の安全対策にも取り組む予定です。
65		通学距離が延伸する子もいるのでは。ルートによっては5車線の道路もある。住宅街の中を練り歩くルートにしてもガードレールのない歩道が続く箇所もあり、柏中までの道のりが不安。共働き家庭で毎日付き添えないため、年齢制限をつけたとしてもスクールバスは前向きに検討してほしいがどうか。 バスに乗り遅れた時の対応は。共働き世代も多く、送迎できない家庭も多い。乗り遅れると欠席では困る。	

No	項目	質問	回答
66	スクールバス	スクールバスは遠方の子だけが対象か。	スクールバスの詳細は検討中であり，対象者やルート等の詳細は決定しておりません。他地域との公平性や交通状況も考慮し，関係部局や警察と連携し，導入にかかる検討を進めます。
67		怪我等で急なお迎えが必要な場合，どのような対応を考えているか。	怪我等の突発的な事案の場合は，現在の対応と同様，保護者等と連絡・連携を図りながら対応します。
68		スクールバスを運行するには道幅が狭い箇所もあるが運行可能か。	安全対策に留意し，大型バスではない車両形態も含め検討を進めます。
69	施設整備	既存の校舎と体育館とは別に，新たに整備するのか。	前期課程が使用する校舎や体育館は新たに整備する予定です。
70		現在の柏中校舎と新校舎を接続するのか。	校舎間を通路でつなぐ予定です。どちらの施設も児童生徒が共用できるよう検討してまいります。
71		7～9年生が現在の中学校校舎を使用するのか。	どの学年がどの施設を利用するかといった詳細は，今後，子ども達にとっての良好な教育環境を最優先に考え検討を進めてまいります。
72		グラウンドはどうなるのか。	十分な広さがあるため，小学校の児童と中学校の生徒が使うスペースを区分できるよう整備する予定です。
73		放課後も小学生が校庭で遊べるか。	放課後の校庭開放の是非は学校ごとに判断していますので，今後，学校と調整しながら取り扱いについて検討します。
74		児童生徒数が増加した時に学校以外の敷地を買い足しできるのか。	柏中学校付近で学校敷地を買い足す予定はありません。児童生徒数が増加した場合には，他の学校と同様に，校舎の増築等を検討します。

No	項目	質問	回答
75	防災拠点	小学校は避難所に指定されているが、どうか。	新たに体育館を整備しますので、一定程度、避難所機能は補完できるものと考えます。 柏一小や旭東小の取り扱いを検討する上では、避難所機能も含めて、オール柏で検討が必要なものと認識しています。
76	工事	柏中敷地内での工事期間中、受験期の生徒への影響や制約はどうか。受験生へ配慮してほしい。	大きな音が長期間発生する工事は、可能な限り子ども達がいらない夏休み等に行うよう配慮し進めます。
77		柏一小の現地建替えは、騒音や振動が出るとの話だが、矛盾しないか。	柏一小では、狭い校地面積の中で校舎等の解体も行うこととなるため、騒音や振動が長期間にわたり発生する点が異なります。
78	こどもルーム	こどもルームはどの程度の規模で設置するのか。	現在、柏一小と旭東小のこどもルームの規模を勘案しつつ、将来見込まれる入所児童数を踏まえ設置を検討します。
79		柏一小のこどもルームは、利用者が多いが、職員数が少なく場所も狭い。今は、民間学童に通わせているが、より充実するのであれば通わせたい。	こどもルームは敷地内に併設する予定です。こどもルームの管理運営については、こども部学童保育課が担当となりますのでご意見として共有します。
80		こどもルームからの帰宅方法やお迎えはどのように考えているか。現状、①保護者が迎えに行き一緒に徒歩で帰る、②パンザマストが鳴ったら一人で帰る例が多いが、柏中からだと徒歩で帰るのは難しいのでは。	こどもルームの管理運営については、こども部学童保育課が担当となります。関係部署と連携しながら、対応について検討します。
81	柏の葉小・中学校	柏の葉小中学校も校舎は連結しているのか。	上空通路で連結しており、施設の共用を行っています。
82	義務教育学校設置の予定	柏市内で2校目、3校目の義務教育学校の設置の予定は。	学校の規模、歴史的背景、地理的条件等が整わないと実現することは困難です。現時点で具体的な設置の予定はありません。

